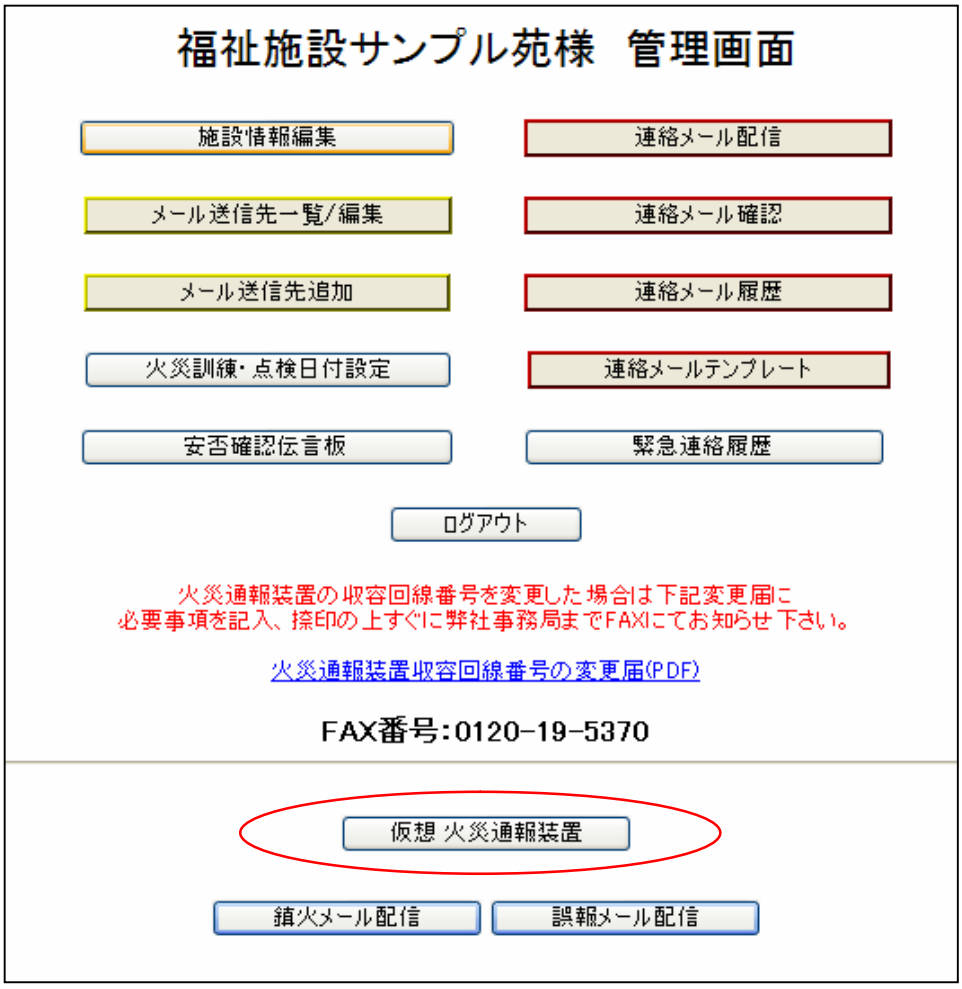
補足説明書　5　　仮想火災通報装置の使用法

取説説明書（統括管理者用）P30 に続く補足説明書

「毎月火災訓練を行っているが、火災通報装置を押さずに職員に火災メール配信をしたいが、何とかならないか？」とのご意見をいただいておりました。火災通報装置を押すと必ず 119 番通報されるので、事前に消防署に電話を入れる必要があります。今回、実際の火災通報装置に依らない仮想火災通報装置をご用意し、火災メールに依る消防訓練や緊急連絡訓練を行い易くしました。この内容を補足説明書 5 にまとめ取扱説明書に追加します。

1、仮想火災通報装置の使用法

操作　管理画面→仮想 火災通報装置　（鎮火・誤報メールと同じ欄にあります）



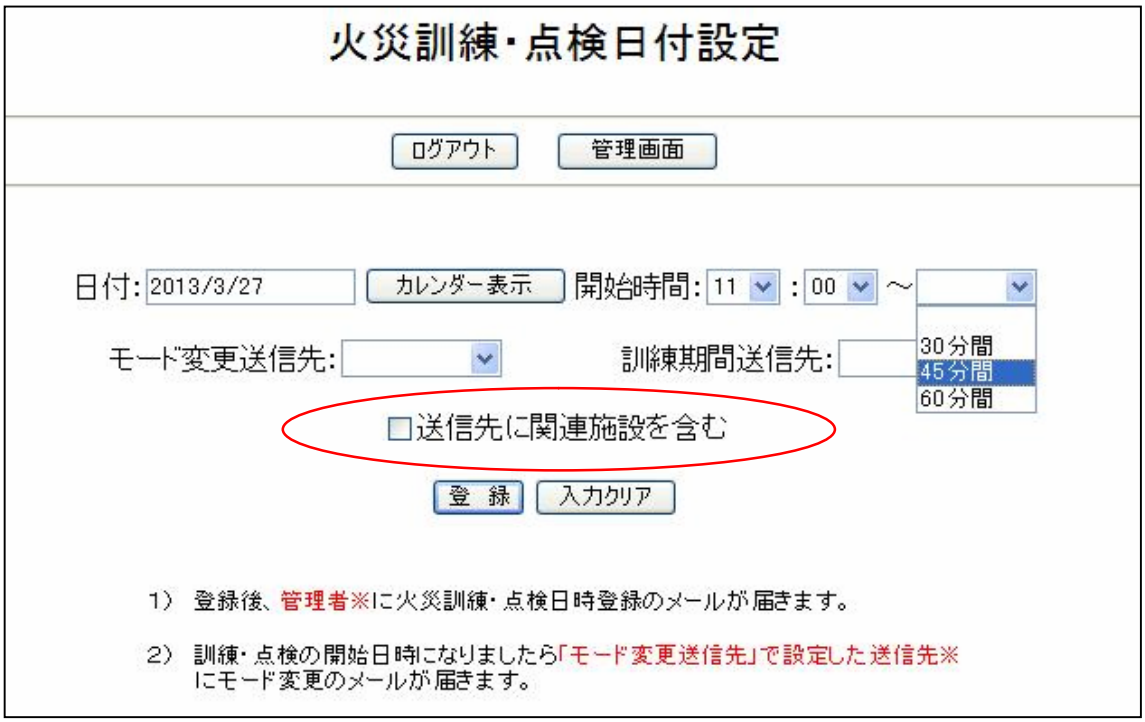
赤丸囲み部分の「仮想 火災通報装置」を追加しました。

起動ボタン（ここを押して下さい）を押すと、模擬の送出音声メッセージが流れ、３０秒間のカウントダウンが始まります。３０秒以内であれば配信を中止することができます。また、メールテストですので 119 番に通報されることはありません。

「仮想通報装置による訓練火災メール」の本文中の施設名称や住所などは貴施設名称や住所で配信されます。配信メール件名に「訓練」が付いているとはいえ、受信者はびっくりしますので事前の日常連絡メールによる周知が必要です。また、実際の火災通報装置を押したときと同じように関連施設の登録があれば、関連施設職員にも「仮想通報装置による訓練火災メール」が配信されます。

２、火災訓練・点検日付設定をして自施設のみで訓練

関連施設の登録がある場合で、自施設だけで訓練を行い、関連施設の職員に配信しない場合は、**火災訓練・点検日付設定**を行い、設定時間内に仮想火災通報装置のボタンを押す必要があります。もちろん下図の「送信先に関連施設を含む」にチェックが入っていないことも確認しましょう。



３、「仮想通報装置による訓練火災メール」で主系統のチェックを！

「仮想通報装置による訓練火災メール」の配信は、主系統のテストメールと同じ働きをしますので、「メール送信先一覧・編集」の主系統の結果欄を確認しましょう。しばらく空白ですが、６分後には最新の結果が表示されます。

この「仮想 火災通報装置」機能は、2013 年 7 月 31 日　17 時以降から使用できます。